



「朝あけて船より鳴れる太笛の

こだまはながし並^なみよるふ山」

齋藤茂吉

齋藤茂吉は、大正六年十二月から同十年三月までの三年余り、長崎医専の教授として長崎に在住した。

右の歌は、第二歌集『あらたま』の最後を飾る名歌であり、長崎での生活の第一歩を踏み出す心境が伝わってくる。長崎市の桜町公園にはこの歌の碑が建立されている。

長崎市内には、興福寺にも次の茂吉歌碑がある。

長崎の昼しづかなる唐寺や

思ひいづれば白きさるすべりの花

また、雲仙市小浜町の夕陽の広場にも歌碑がある。

ここに来て落日を見るを常とせり

海の落日も忘れざるべし